



2008年度 補足資料目次

【2】補足資料

1. 損益計算書推移	P1
2. 為替レート	P3
3. グローバル製品売上高	P3
4. 海外売上高	P4
5. セグメント別情報（事業別）	P5
6. セグメント別情報（所在地別）	P5
7. 主要会社の状況	P6~9
8. 要員数の推移	P10
9. 主要経営財務指標	P11
10. 設備投資および減価償却費	P11
11. 単元株式の所有者別状況	P11
補足：ランバクシー社株式取得に伴う会計処理	
12. 連結貸借対照表	P12~13
13. 連結損益計算書	P14
14. 連結キャッシュ・フロー計算書	P15
15. 主要開発パイプラインの状況	P16~20

ご参考：ヒストリカルデータ



1.損益計算書推移

<第一三共グループ全社損益>

(億円)

	2008年度実績								2009年度予想										
	第4四半期		前同 増減	年度		対公表 (1月)	前同 増減	上半期	前同 増減	年度		前同 増減							
売上高	<16.4> 100.0		2,145	303	<-4.3> 100.0		8,421	-79	-380	<14.4> 100.0		4,650	587	<14.0> 100.0		9,600	1,179		
売上原価	29.7	636	108	25.5	2,144	-26	-202	29.0	1,350	374	29.0	2,780	636	62.2	2,890	419	61.0	5,860	471
販管費	74.6	1,601	287	64.0	5,389	59	502	20.0	930	107	20.2	1,940	95	42.2	1,960	313	40.8	3,920	377
再掲) 研究開発費	25.8	554	89	21.9	1,845	60	211												
再掲) 研究開発費以外の 販管費	48.8	1,047	198	42.1	3,543	-2	291												
営業利益	<-> -		-92	-92	<-43.3> 10.6		889	-111	-680	<-33.5> 8.8		410	-206	<8.0> 10.0		960	71		
営業外収益		31	-17		123	3	-47		50	-11		60	-63		290	209		330	-130
営業外費用		319	301		460	30	412		290	209		330	-130						
経常利益	<-> -		-380	-410	<-67.4> 6.6		552	-138	-1,139	<-71.5> 3.7		170	-426	<25.1> 7.2		690	138		
特別利益		11	-109		38	3	-123		0	-8		0	-38						
特別損失		59	-34		3,672	7	3,489		0	-39		0	-3,672						
税引前利益		-	-428	-485		-	-3,083	-143	-4,751		3.7	170	-396		7.2	690	3,773		
当期純利益	<-> 38.4		823	811	<-> -		-2,155	1,005	-3,132	<-76.5> 1.7		80	-260	<-> 4.2		400	2,555		

(億円)

	2008年度実績							
	年度	対前同	対前期との増減内容		対公表 (1月)	対公表との増減内容		
売上高	<-4.3> 100.0	8,421	-380	・非医薬事業の外部化 -320億円 ・'07年度欧州子会社決算期変更 -141億円 ・ランバクシー社の連結化 +386億円 ・円高、薬価改定の影響、販売権の返還等による減収	-79	・ランバクシー社暫定実績値の精査 -14億円 ・国内医薬 -83億円		
売上原価	25.5	2,144	-202		-26			
販管費	64.0	5,389	502		59			
再掲) 研究開発費	21.9	1,845	211	・ランバクシー社の連結化ならびに取得価額の配分に伴う増加 +95億円 ・ArQuile社、U3ファーマとの提携に伴う増加等	60	・ランバクシー社の連結化ならびに取得価額の配分に伴う増加 +69億円		
再掲) 研究開発費以外の 販管費	42.1	3,543	291	・ランバクシー社の連結化 +150億円 ・ランバクシー社株式取得に伴うのれん償却費の発生 +102億円 ・非医薬品事業の外部化、欧州子会社決算期変更による減少 -129億円 ・欧米子会社 (DSI/DSE) 海外基盤強化に伴う増加 +102億円	-2			
営業利益	<-43.3> 10.6	889	-680		-111			
営業外収益		123	-47		3			
営業外費用		460	412	・ランバクシー社の連結化 +259億円 ・米国DSI擬似ストックオプション評価損 +49億円 ・欧州子会社無形固定資産の為替評価損等 +68億円	30	・米国DSI擬似ストックオプション評価 +17億円 ・DSIにおける運用資産評価損 +15億円		
経常利益	<-67.4> 6.6	552	-1,139		-138			
特別利益		38	-123		3			
特別損失		3,672	3,489	・のれんの減損 +3,513億円	7			
税引前利益		-	-3,083	-4,751		-143		
当期純利益	<-> -	-2,155	-3,132	・法人税等 -1,483億円 ・少数持株利益 -137億円	1,005			

【ご参考】

＜ランバクシー社の業績＞ (億円)

	2008年度実績				
	第4四半期		年度		対公表 (1月)
売上高	100.0	386	100.0	386	-14
売上原価	53.1	205	53.1	205	-5
販管費	45.4	176	45.4	176	-4
再掲) 研究開発費	6.7	26	6.7	26	1
再掲) 研究開発費以外の 販管費	38.8	150	38.8	150	-5
営業利益	1.5	6	1.5	6	-4
営業外収益		14		14	4
営業外費用		259		259	-11
経常利益	-	-239	-	-239	11
特別利益		2		2	2
特別損失		3		3	3
税引前利益		-241		-241	9
当期純利益	-	-162	-	-162	-52

【換算レート 1インドルピー=2.0円】

*ランバクシー社株式取得に伴い、2008年10月1日よりランバクシー社が連結子会社に加わりました。従って、ランバクシー社の第4四半期(10-12月)の実績が当社の第4四半期(1-3月)に取り込まれております。

＜ランバクシー社株式取得に関わる会計処理の影響＞ (億円)

	2008年度実績		
	第4四半期	年度	対公表 (1月)
売上高			
売上原価	18	18	18
販管費	120	175	65
再掲) 研究開発費	69	69	69
再掲) のれん償却	47	102	-8
営業利益	-138	-193	-83
営業外収益			
営業外費用			
経常利益	-138	-193	-83
特別利益			
特別損失 のれん一時償却	-27	3,513	-27
税引前利益	-111	-3,706	-56
当期純利益	1,103	-2,492	1,158

＜ランバクシー社関連影響除外後＞

(億円)

	2008年度実績					実質比較 除) '07年度特殊要因' 除く	
	第4四半期	前同 増減	年度	対公表 (1月)	前同 増減	第4四半期 前同増減	年度 前同増減
売上高	<-4.6>		<-8.7>			-18	-305
売上原価	23.5	413	-115	239	1,921	-39	-425
販管費	74.2	1,305	-8	62.7	5,038	-2	151
再掲) 研究開発費	26.1	459	-6	21.8	1,751	-9	116
再掲) 研究開発費以外の 販管費	48.1	847	-3	40.9	3,288	8	35
営業利益	<>		<-31.4>			47	-475
営業外収益		17	-31		108	-2	-62
営業外費用		60	42		200	40	153
経常利益	<>		<-41.8>			-26	-687
特別利益		10	-111		36	1	-125
特別損失		83	-10		156	31	-27
税引前利益		-77	-133		108	864	-96
当期純利益	<>		<-48.9>			-109	-452

*当社は医薬品事業への集中を図るため、2007年度中に非医薬事業のグループ外化を行いました。従って、連結除外となった非医薬事業の業績(売上高320億円、営業利益-1億円)を除き、継続している事業の実質比較を行っております。また、2007年度は欧州子会社の決算期変更により15ヶ月決算となっていることから、上記要因に加えて欧州子会社3ヶ月分の業績(売上高141億円、営業利益18億円)も除いて比較しております。

＜業績予想の補足＞

(億円)

	2009年度予想		増減内容(前期との差異)
	年度	前同 増減	
売上高	<14.0>		
【内訳】ランバクシー社	<249.3>	1,350	964
除)ランバクシー社	<2.7>	8,250	215
当期純利益	<>	4.2	400
【内訳】ランバクシー社	<>	-190	-28
除)ランバクシー社	<>	590	2,583

年間ベースで業績が寄与【前期は第4四半期(10-12月)のみ】
 国内医薬+240億円、米子会社DSI+107億円、LPI-76億円、欧州子会社DSE+7億円、その他シロフロキサシン輸出売上の減少等(為替影響額-320億円 ※上記海外子会社には為替レートの影響を含む)
 第1四半期(1-3月)に為替デリバティブによる評価損を計上等
 前期:のれん一時償却費を計上(3,513億円)
 売上は増加するものの、欧米子会社を中心に営業基盤拡充による販管費の増加、DU-176bのフェーズ3試験開始に伴う研究開発費が増加

2.為替レート

	2007年度	2008年度			2009年度 予想レート		
	年度実績	年度予想 (08年5月時点)	年度予想 (09年1月時点)	年度実績	年度予想	1円の為替変動による 年間業績へのインパクト	
円/USD (期中平均)	114.3	100.0	99.6	100.5	95.0	売上高 営業利益	約23億円 約3億円
円/EUR (期中平均)	160.5	155.0	143.0	143.5	120.0	売上高 営業利益	約6億円 軽微
円/INR (期中平均)	-	-	2.0	2.0	1.9	売上高*	約70億円

* インドルピーは 0.1円の為替変動による年間業績へのインパクト

3. グローバル製品売上高

	2008年度実績				前同増減* 除) 07年度特殊要因		2009年度予想			
	第4四半期	年度	対公表 (1月)	前同 増減	上半期	年度	上半期	前同 増減	年度	前同 増減
オルメサルタン 【高血圧症治療剤】	<9.1> 490	<8.0> 2,111	-14	156	<15.9> 143	<11.6> 220	<7.3> 1,122	<11.5> 76	<11.5> 2,355	244
オルメテック (日本)	<28.7> 144	<16.6> 644	-26	92			<24.6> 390	<27.4> 77	<27.4> 820	176
ベニカーHCT / ベニカー (米国)	<1.6> 196	<-0.6> 874	24	-5			<-6.5> 425	<-1.6> -30	<-1.6> 860	-14
エイゾール (米国)	<241.8> 23	<240.7> 87	-3	61			<71.7> 65	<72.9> 27	<72.9> 150	63
オルメテックプラス / オルメテック (欧州) *	<-13.6> 97	<-10.3> 375	0	-43	<17.4> 28	<5.9> 21	<-8.9> 170	<-2.7> -17	<-2.7> 365	-10
セビカー (欧州)	<-> 8	<-> 22	-3	22			<-> 22	<105.6> 22	<105.6> 45	23
その他子会社/輸出等	<-12.5> 22	<35.6> 110	-5	29			<-7.0> 50	<4.3> -4	<4.3> 115	5
レボフロキサシン 【合成抗菌剤】	<-4.6> 226	<-10.2> 977	-18	-111			<-13.4> 427	<-5.8> -66	<-5.8> 920	-57
クラビット (日本)	<-1.2> 97	<-9.2> 430	-20	-44			<7.1> 210	<2.3> 14	<2.3> 440	10
輸出等	<7.6> 71	<-8.7> 311	1	-29			<-38.3> 110	<-17.9> -68	<-17.9> 255	-56
特許料	<-26.6> 40	<-17.6> 161	-1	-34			<-13.0> 70	<-6.7> -10	<-6.7> 150	-11
その他子会社	<-2.6> 18	<-4.0> 75	2	-3			<-4.2> 37	<-0.2> -2	<-0.2> 75	0
プラバスタチン 【高コレステロール血症治療剤】	<-15.3> 123	<-20.5> 608	3	-156	<-17.5> -68	<-18.8> -140	<-9.2> 290	<-29> -29	<-9.6> 550	-58
メパロチン (日本)	<-14.3> 100	<-17.6> 507	-3	-109			<-6.1> 250	<-7.3> -16	<-7.3> 470	-37
輸出等	<-3.5> 7	<-36.6> 32	2	-18			<-45.2> 10	<-37.0> -8	<-37.0> 20	-12
欧州子会社 *	<-43.9> 7	<-40.7> 40	0	-27	<-21.8> -6	<-22.0> -11	<-24.0> 15	<-37.0> -5	<-37.0> 25	-15
その他子会社	<7.1> 9	<-7.2> 30	5	-2			<-1.2> 15	<17.9> 0	<17.9> 35	5

* 2007年度は欧州子会社が決算期変更により15ヵ月決算となっております。

「前同増減 除) 07年度特殊要因」欄は、上記特殊要因を除外した実質比較を行っております。

プラスグレル (共同販促収入) 【抗血小板剤】	<->	<->		
	0.3	0.3	-	0.3
エフィエント (欧州)	<->	<->		
	0.3	0.3	-	0.3

プラスグレル (共同販促収入) は実績値のみ開示しております。

エフィエント (欧州) の共同販促収入は第一三共単体に計上しております。

4. 海外売上高

第一三共グループ全社海外売上高

	2008年度実績					2009年度予想	
	第4四半期	前同増減	年度	対公表(1月)	前同増減	年度	前同増減
海外売上高	1,147	369	3,733	-17	146	4,655	922
対売上高比率	53.5%		44.3%			48.5%	
北米	566	101	2,213	-	14		
欧州	305	83	982	-	-3		
その他	276	186	538	-	135		

ランバクシー社の海外売上高

	2008年度実績					2009年度予想	
	第4四半期	前同増減	年度	対公表(1月)	前同増減	年度	前同増減
海外売上高	386	386	386	-14	386	1,350	964
北米	104	104	104	-	104		
欧州	82	82	82	-	82		
その他	200	200	200	-	200		

* ランバクシー社の株式取得に伴い、2008年10月1日よりランバクシー社が連結子会社となりました。

ランバクシー社の会計期間は1-12月のため、同社の第4四半期（10-12月）の実績が当社の第4四半期（1-3月）に取り込まれます。

ランバクシー社を除いた海外売上高

	2008年度実績					前同増減* 除) 07年度特殊要因		2009年度予想	
	第4四半期	前同増減	年度	対公表(1月)	前同増減	上半期	年度	年度	前同増減
海外売上高	761	-16	3,347	-3	-240	42	-36	3,305	-42
対売上高比率	43.3%		41.7%					40.1%	
北米	462	-3	2,109	14	-90	8	-89	2,120	11
欧州	223	1	900	-5	-85	31	57	840	-60
その他	76	-14	338	-12	-65	3	-4	345	7

* 当社は医薬品事業への集中を図るため、2007年度中に非医薬事業のグループ外化を行いました。

また、2007年度は欧州子会社が決算期変更により15ヵ月決算となっております。

「前同増減 除) 07年度特殊要因」欄では、これら2つの特殊要因を除外した実質比較を行っております。

5.セグメント別情報（事業別）

（単位：億円）

	2008年度実績							
	第4四半期		前同増減		年度		前同増減	
連結売上高	<16.4>				<-4.3>			
	2,145	303			8,421	-380		
医薬品事業	<21.7>				<-0.2>			
	2,137	382			8,387	-20		
国内医療用医薬品	<1.8>				<-4.7>			
	886	16			4,167	-206		
海外医療用医薬品*	<46.7>				<5.9>			
	1,149	366			3,733	209		
ヘルスケア	<-6.5>				<-6.2>			
	101	-7			472	-31		
その他事業	<-90.7>				<-91.3>			
	8	-79			34	-359		
連結営業利益	<->				<-43.3>			
	-92	-92			889	-680		
医薬品事業	<->				<-44.3>			
	-97	-86			866	-690		
その他事業	<-53.9>				<116.2>			
	5	-6			22	12		

* 2007年度は、第一三共ヨーロッパGmbH（DSE）の決算期を変更（12月期→3月期決算）したため、15ヶ月決算となっております。その影響額（2007年1月-3月）は、売上高141億円、営業利益18億円であります。

6.セグメント別情報（所在地別）

（単位：億円）

	2008年度実績							
	第4四半期		前同増減		年度		前同増減	
連結売上高	<16.4>				<-4.3>			
	100.0	2,145	303		100.0	8,421	-380	
日本	<-8.4>				<-11.4>			
	52.5	1,127	-103		62.9	5,298	-684	
北米	<31.7>				<7.2>			
	22.8	489	118		22.7	1,908	129	
欧州*	<41.8>				<-0.7>			
	12.0	258	76		9.2	774	-5	
インド	<->				<->			
	7.1	153	-		1.8	153	-	
その他	<101.4>				<10.9>			
	5.5	119	60		3.4	289	28	
連結営業利益	<->				<-43.3>			
	-92	-92			889	-680		
日本								
	-88				434			
北米								
	109				503			
欧州*								
	40				58			
インド								
	-189				-189			
その他								
	27				4			

* 2007年度は、第一三共ヨーロッパGmbH（DSE）の決算期を変更（12月期→3月期決算）したため、15ヶ月決算となっております。その影響額（2007年1月-3月）は、売上高141億円、営業利益18億円であります。

7. 主要会社の状況

7-1. 第一三共単体

(単位：億円)

	2008年度実績				2009年度予想			
	第4四半期	年度	対公表 (1月)	前同 増減	(07→08増減)	上半期	年度	前同 増減
国内医療用医薬品合計	<2.3> 862	<-4.8> 4,067	-83	-205		<4.3> 2,090	<5.7> 4,300	233
循環器関連疾患領域	<-0.6> 499	<-4.8> 2,325	-75	-117	薬価改定の影響、08年3月末での販売移管品の影響で減収となったが、数量ベースではオルメテックを中心に伸長	<7.5> 1,260	<9.2> 2,540	215
オルメテック 【高血圧症治療剤】	<28.7> 144	<16.6> 644	-26	92	最も大きく薬価改定の影響(△約10%)を受けたが、競争の激しい市場において、降圧効果の強さが評価され、引き続き市場を大きく上回り拡大	<24.6> 390	<27.4> 820	176
カルブロック 【高血圧症治療剤】	<17.2> 28	<18.9> 121	-9	19	腎保護作用が評価され、CKD(慢性腎臓病)合併高血圧患者に対するアンジオテンシンⅡ阻害剤との併用処方が拡大	<17.4> 70	<23.6> 150	29
アーチスト 【高血圧症治療剤】	<6.8> 49	<3.6> 219	-11	8	市場が縮小する中において、慢性心不全に唯一適応のあるβ遮断薬として心臓疾患を中心に処方が拡大し、同一薬効内トップシェアを堅持	<9.2> 120	<9.5> 240	21
メパロチン 【高コレステロール血症治療剤】	<-14.3> 100	<-17.6> 507	-3	-109	MEGA Studyの結果が07年のガイドラインに反映され処方機会の増加はあるものの、後発品処方の拡大や競合品の攻勢により減収	<-6.1> 250	<-7.3> 470	-37
クレメジン 【慢性腎不全用剤】	<5.3> 28	<2.9> 128	-12	4	後発品の処方が拡大傾向にある中、CKD診療ガイドにおいて重度患者に対する経口吸着薬の処方が推奨されたことが追風となり新規患者数が増加	<9.3> 70	<9.8> 140	12
ハンブ 【急性心不全剤】	<-8.1> 22	<-6.2> 92	-3	-6	急性心不全治療の第一選択薬として市場における優位性は堅持しつつも、薬価改定やDPCの影響により微減	<-5.7> 40	<-1.8> 90	-2
リバロ 【高コレステロール血症治療剤】	<16.6> 14	<11.8> 61	-9	6	スタチンのバイオエナメーカーとして脂質異常症における適切な薬物治療提案を推進し、採用院数ならびに処方数が拡大	<36.0> 40	<39.4> 85	24
サンリズム 【不整脈治療剤】	<-0.3> 25	<-3.6> 116	-4	-4	心房細動治療の第一選択薬としての地位は確保しているものの、薬価改定の影響により微減	<1.0> 60	<3.0> 120	4
ファスティック 【血糖降下剤】	<-1.3> 11	<-1.2> 51	-9	-1	グリニド製剤市場においてトップシェアを堅持	<14.8> 30	<17.2> 60	9
感染症/骨・関節/ 免疫・アレルギー/泌尿器	<4.6> 300	<-1.0> 1,374	-2	-14	薬価改定の影響、クラビット等の減少で減収となったが、数量ベースではロキソニン・ユリーフを中心に伸長	<13.2> 710	<12.8> 1,550	176
クラビット 【合成抗菌剤】	<-1.2> 97	<-9.2> 430	-20	-44	市場の低迷、薬価改定の影響もあり減収。他社新製品が発売されたが、高い安全性と強い抗菌力の位置づけは安定し、引き続き高いシェアを維持	<7.1> 210	<2.3> 440	10
ロキソニン 【消炎鎮痛解熱剤】	<12.3> 83	<15.1> 387	-23	51	後発品処方が拡大する中、パップ剤に加え、7月に発売したテープ剤が高いブランド力と優れた製品性により増収に寄与	<27.2> 240	<31.8> 510	123
モービック 【消炎鎮痛剤】	<-18.3> 16	<-17.8> 84	-16	-18	競合他社より発売されたCOX-2阻害剤の影響および後発品発売(7月)により減収	<-1.9> 45	<12.8> 95	11
ユリーフ 【排尿障害改善剤】	<60.5> 22	<46.0> 79	-6	25	高い有用性により院数と処方数が拡大。シェアは確実に増加し、薬効内第3位に到達	<27.2> 45	<26.4> 100	21
シルテック 【抗アレルギー剤】	<-4.8> 35	<-14.1> 93	3	-15	29社より後発品が発売され減収	<11.5> 40	<7.4> 100	7
造影剤/癌/消化器	<-13.6> 101	<-17.5> 488	8	-103	薬価改定の影響、08年3月末での販売移管品の影響により減収	<0.9> 250	<0.4> 490	2
オムニパーク 【造影剤】	<-4.7> 57	<-9.1> 283	-7	-28	造影剤市場が縮小傾向にある中、包括医療による後発品処方の拡大などにより減収	<-0.5> 145	<-1.1> 280	-3
トボテシン注 【抗悪性腫瘍剤】	<2.1> 14	<0.9> 62	-3	1	消化器癌領域における薬物治療メニューに標準治療薬として組み入れられ処方が拡大	<1.8> 32	<4.4> 65	3

7-2. 第一三共ヘルスケア

(単位：億円)

	2008年度実績					2009年度予想		
	第4四半期	年度	対公表 (1月)	前同 増減	(07→08増減)	上半期	年度	前同 増減
ヘルスケア売上高合計	<6.5> 101	<6.2> 472	-8	-31		<2.1> 245	<5.9> 500	28
ルル類	<6.9> 14	<2.2> 98	-3	-2	感冒薬市場の低迷により売上は微減となったが、市場におけるシェアは拡大した。	<9.8> 53	<12.6> 110	12
ガスター10	<12.6> 7	<5.5> 33	0	-2	胃腸薬市場の低迷により微減。	<15.3> 14	<14.0> 28	-5
新三共胃腸薬類	<12.1> 7	<5.2> 33	0	-2	胃腸薬市場の低迷に加え、2007年度に発売した「新三共胃腸薬プラス」の反動により微減。	<5.8> 17	<8.5> 36	3
パテックス類	<9.3> 4	<10.4> 27	-1	-3	2007年度に発売した「フェルピナク」シリーズの反動と市場における競争激化により減少。	<33.6> 21	<27.7> 34	7
トランシーノ	<69.6> 1	<41.4> 15	-1	-11	個人消費の低迷や肝斑治療に対する消費者の理解が十分に得られず、新規購入が促進されなかったこと等により大幅に減少。	<20.0> 10	<9.9> 17	2

7-3. 第一三共 Inc. (米国)

(単位：億円)

	2008年度実績					2009年度予想		
	第4四半期	年度	対公表 (1月)	前同 増減	(07→08増減)	上半期	年度	前同 増減
第一三共 Inc. (DSI)	<15.3> 279	<1.9> 1,293	13	24		<2.7> 670	<8.3> 1,400	107
mil USD	<27.9> 300	<15.8> 1,286	1	176		<8.7> 705	<14.6> 1,474	188
ベニカー/ベニカーHCT 【高血圧症治療剤】	<1.6> 196	<0.6> 874	24	-5	アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤(ARB)市場は2008年に初めて数量ベースでマイナス成長となった。ベニカー/ベニカーHCTは優れた降圧効果を有する製品として、単独販促となった2008年度も継続して積極的なプロモーションを展開。新規処方箋の獲得は順調に推移し、数量ベース・金額ベース(現地通貨ベース)共に増加した。	<6.5> 425	<1.6> 860	-14
mil USD	<14.1> 210	<13.0> 869	16	100		<4.4> 447	<4.2> 905	36
エイゾール 【高血圧症治療剤】	<241.8> 23	<240.7> 87	-3	61	2007年10月の販促開始後、優れた有効性と安全性等を有するユニークな製品としてのポジション確立を目指したプロモーションを展開。製品特性のみならず、競合薬に劣らないレベルのプロモーションを確保することによりシェアを拡大してきている。	<71.7> 65	<72.9> 150	63
mil USD	<285.1> 24	<287.2> 86	-4	64		<91.8> 68	<82.9> 158	72
ウェルコール 【高コレステロール血症治療剤 /2型糖尿病治療剤】	<4.3> 53	<7.8> 245	-5	18	高コレステロール血症と2型糖尿病の両方に適応を持つ唯一の薬剤。2008年1月の2型糖尿病効能追加を機にプロモーションを強化し、伸長が加速。	<7.8> 135	<16.4> 285	40
mil USD	<17.8> 57	<22.5> 244	-7	45		<20.4> 142	<23.1> 300	56

7-4. ルイトポルド ファーマシューティカルズ Inc. (米国)

(単位：億円)

	2008年度実績					2009年度予想		
	第4四半期	年度	対公表 (1月)	前同 増減	(07→08増減)	上半期	年度	前同 増減
ルイトポルド (LPI)	<17.8> 107	<0.1> 511	6	1		<20.5> 215	<14.9> 435	-76
mil USD	<5.7> 115	<13.8> 509	2	62		<11.2> 226	<10.0> 458	-51
ヴェノファー 【貧血治療剤】	<15.3> 69	<3.1> 320	5	10	透析市場での安定した利益を確保すべく、2008年度半ばに世界最大の透析チェーン企業フレジニウス社と米国透析市場における独占的サブライセンス契約を締結。LPIは非透析市場に注力した。08年度はジェネリックや競合の参入もなく、透析/非透析(病院)市場ともシェアを順調に拡大した。	<19.9> 135	<14.2> 275	-45
mil USD	<2.8> 74	<17.2> 319	3	47		<10.5> 142	<9.2> 289	-29

7-5. 第一三共ヨーロッパ GmbH (欧州)

(単位: 億円)

	2008年度実績					2009年度予想		
	第4四半期	年度	対公表 (1月)	前同 増減	(07→08増減)	上半期	年度	前同 増減
第一三共ヨーロッパ GmbH (DSE)	24	186	703	-7	-77	25	345	7
mil EUR	27.9	147	490	-7	4	38.9	20.8	102
オルメテック/ オルメテックプラス 【高血圧症治療剤】	<-13.6>	97	375	0	-43	<-8.9>	170	-10
mil EUR	<8.5>	77	261	-1	1	<23.6>	16.4	43
セビカー 【高血圧症治療剤】	<->	8	22	-3	22	<->	22	23
mil EUR	<->	6	15	-2	15	<->	18	22
メハロチン 【高コレステロール血症治療剤】	<-43.9>	7	40	0	-27	<-24.0>	15	-15
mil EUR	<-25.7>	6	28	0	-14	<3.0>	13	-7
エピスタ 【骨粗鬆症治療剤】	<57.8>	22	120	-5	67	<-23.2>	52	-15
mil EUR	<111.8>	18	84	-4	51	<4.1>	43	4

* DSEの2007年度実績は、決算期の変更により15ヶ月分を計上しております。

なお、2007年1月-3月の実績はDSE全体で141億円 (€89 mil)、オルメテック/オルメテックプラス、メハロチン、エピスタの製品売上は、それぞれ64億円 (€40 mil)、16億円 (€10 mil)、10億円 (€6 mil) であります。

【参考】 エフィエント (欧州) 共同販促収入

エフィエント 【抗血小板剤】	<->	0.3	0.3	-	0.3
mil USD	<->	0.3	0.3	-	0.3

* 欧州のエフィエント共同販促収入は第一三共単体に計上されており、上記DSEの売上には含まれません。
エフィエントは予想値を開示しておりません。

7-5. 第一三共ヨーロッパ GmbH (欧州) <2007年度決算期変更による影響除外>

	2008年度実績				
	第4四半期	年度	対公表 (1月)	前同 増減	(07→08増減)
第一三共ヨーロッパ GmbH (DSE)	24	186	703	-7	64
mil EUR	27.9	147	490	-7	92
オルメテック/ オルメテックプラス 【高血圧症治療剤】	<-13.6>	97	375	0	21
mil EUR	<8.5>	77	261	-1	41
セビカー 【高血圧症治療剤】	<->	8	22	-3	22
mil EUR	<->	6	15	-2	15
メハロチン 【高コレステロール血症治療剤】	<-43.9>	7	40	0	-11
mil EUR	<-25.7>	6	28	0	-4
エピスタ 【骨粗鬆症治療剤】	<57.8>	22	120	-5	77
mil EUR	<111.8>	18	84	-4	57

7-6. アジア/中南米 (ASCA)

(単位：億円)

	2008年度実績					2009年度予想		
	第4四半期	年度	対公表 (1月)	前同 増減	(07→08増減)	上半期	年度	前同 増減
ASCA合計	<1.6> 60	<9.5> 230	1	20	為替影響を除外すると +23.5%の伸長	<0.8> 112	<4.6> 240	10
第一製薬北京 (DPP)	<-22.0> 9	<-1.3> 40	-1	-1	現地通貨ベースでは +2.7%の伸長。クラビットの伸長に加え、SSP製品の販促により抗菌剤フランチャイズを強化。	<-0.7> 20	<-5.6> 38	-2
上海三共 (SSP)	<126.2> 11	<69.0> 38	0	16	現地通貨ベースでは +75.8%の伸長。DPPが販促するカルベニン、セフメタゾンの伸長が大幅寄与。	<43.2> 23	<26.3> 49	10
韓国第一三共 (DSKR)	<-19.7> 6	<-12.4> 30	2	-4	現地通貨ベースでは +20.4%の伸長。クラビットおよびメハロチンの拡大に加え、08年度より開始したオルメテックの共同販促収入も寄与。	<-19.9> 14	<8.4> 32	3
第一三共タイ (DSTH)	<-13.4> 2	<-1.4> 8	0	0	現地通貨ベースでは +20.9%の伸長。クラビット注射剤を中心に売上伸長。2009年3月にはクラビット750mg注を上市。	<4.0> 4	<4.9> 9	0
台湾第一三共 (DSTW)	<-15.5> 8	<-5.4> 35	0	-2	現地通貨ベースでは +6.1%の伸長。オルメサルタンを中心に伸長。2008年5月には口腔乾燥症状改善薬エボザックを上市。	<-9.7> 17	<-4.2> 33	-1
第一三共ブラジル (DSBR)	<-4.2> 14	<13.6> 50	0	6	現地通貨ベースでは +20.4%の伸長。配合剤 (オルメサルタン+アムロジピン) の上市によりオルメサルタン群の成長が加速。	<-25.9> 16	<-22.0> 39	-11
第一三共ベネズエラ (DSVE)	<9.8> 10	<19.0> 28	0	4	現地通貨ベースでは +36.3%の伸長。ARB市場の競争が激化するも、資源の集中投入によりオルメサルタンが大幅伸張。	<45.9> 16	<45.5> 41	13

7-7. ランバクシー・ラボラトリーズ Ltd.

(単位：億円)

	2008年度実績					2009年度予想*	
	第4四半期	年度	対公表 (1月)	前同 増減	(07→08増減)	年度	前同 増減
ランバクシー	<-> 386	<-> 386	-14	386	株式取得により2008年10月1日より連結子会社	<249.3> 1,350	964
億インドルビー	<-> 193	<-> 193	-7	193	当社2008年度実績には、ランバクシーの第4四半期 (10-12月) を取り込み	<267.4> 710	517

* ランバクシーについては年度の予想値のみ開示しております。

7-8. ASCA各社およびランバクシーのグローバル製品売上高

(単位：億円)

	2008年度実績					2009年度予想		
	第4四半期	年度	対公表 (1月)	前同 増減	(07→08増減)	上半期	年度	前同 増減
オルメサルタン 【高血圧症治療剤】	<38.4> 21	<74.2> 73	0	31	為替影響を除外すると +92.2%の伸長。台湾、ブラジル、ベネズエラなどでの拡大に加え、韓国での共同販促開始も寄与。	<-6.0> 30	<2.3> 75	2
レボフロキサシン 【合成抗菌剤】	<-2.6> 18	<-4.0> 75	2	-3	為替影響を除外すると +9.0%の伸長。中国 (DPP)、韓国、タイなどでの伸長に加え、ランバクシーの売上も寄与。	<-4.2> 37	<-0.2> 75	0
プラバスタチン 【高コレステロール血症治療剤】	<7.1> 9	<-7.2> 30	5	-2	為替影響を除外すると +15.1%の伸長。中国 (SSP)、台湾、韓国などでの伸長に加え、ランバクシーの売上も寄与。	<-1.2> 15	<17.9> 35	5

8. 要員数の推移

	2007年度		2008年度	
	3月末		9月末	3月末*
連結要員数	15,349		16,237	28,895
(再掲)				
国内要員数	9,048		9,096	9,148
海外要員数	6,301		7,141	19,747

	2007年度		2008年度			
	3月末	営業担当者数 (MR)	9月末	営業担当者数 (MR)	3月末*	営業担当者数 (MR)
連結要員数	15,349		16,237		28,895	
(再掲)						
【日本】						
第一三共 (DS)	5,925	2,400	6,007	2,400	5,960	2,400
第一三共ヘルスケア (DSHC)	396	150	401	150	401	150
【米国】						
第一三共INC. (DSI)	2,446	1,550	2,856	1,810	2,875	1,800
ルイトボルド社 (LPI)	498	90	497	90	477	70
【欧州】						
第一三共ヨーロッパ GmbH (DSE)	1,776	830	2,031	1,020	2,436	1,350
【アジア/中南米】						
第一製薬北京 (DPP)	443	143	470	164	459	158
上海三共 (SSP)	456	196	486	201	504	208
香港第一三共 (DSHK)	7	-	7	-	7	-
韓国第一三共 (DSKR)	89	51	89	48	98	49
第一三共タイ (DSTH)	46	18	38	13	44	18
台湾第一三共 (DSTW)	150	65	159	69	158	69
第一三共ブラジル (DSBR)	266	118	288	116	292	112
第一三共ベネズエラ (DSVE)	123	70	128	61	131	80

	2007年度		2008年度	
	3月末		9月末	3月末*
ランバクシー社グループ	-		-	12,174

*会計期間の異なる海外子会社については12月末要員数

9.主要経営財務指標

(億円)

	2007年度実績		2008年度実績		2009年度予想	
	上半期	年度	上半期	年度	上半期	年度
経営指標						
配当性向(連結)	42.1%	51.7%	83.9%	-	264.0%	105.6%
純資産配当率(DOE)	-	4.0%	-	5.4%	-	-
1株当たり利益(EPS)	83.2円	135.3円	47.7円	-304.2円	(11.4円)	(56.8円)
1株当たり配当金	35.0円	70.0円	40.0円	80.0円	30.0円	60.0円
配当金総額	252億円	503億円	282億円	563億円	-	-
自己資本当期純利益率(ROE)	-	7.8%	-	-20.5%	-	-
1株当たり純資産(BPS)	1,762.0円	1,730.1円	1,683.8円	1,226.0円	-	-
自己資本比率	83.6%	83.6%	83.9%	57.7%	-	-
自己株式取得(株式数)	10,020千株	10,035千株	15,021千株	15,044千株	-	-
自己株式取得	334億円	334億円	458億円	458億円	-	-
期末発行済株式総数*	719百万株	719百万株	704百万株	704百万株	-	-
期末株価(終値)	3,450円	2,945円	2,695円	1,648円	-	-
時価総額	24,805億円	21,174億円	18,973億円	11,602億円	-	-
財務指標						
総資産	15,158億円	14,879億円	14,123億円	14,946億円		
流動資産	9,449億円	9,265億円	8,575億円	7,835億円		
有利子負債	60億円	1億円	0億円	3,114億円		
自己資本	12,668億円	12,439億円	11,853億円	8,631億円		
営業CF	-68億円	667億円	188億円	784億円		
投資CF	56億円	-494億円	-1,980億円	-4,139億円		
財務CF	-595億円	-829億円	-710億円	981億円		
フリーキャッシュフロー**	-12億円	173億円	-1,793億円	-3,355億円		
現金および現金同等物期末残高	4,539億円	4,443億円	1,921億円	1,778億円		
手元流動性 (現金+有価証券+投資有価証券他)	6,526億円	6,620億円	3,851億円	3,642億円		
連結子会社数	46社	43社	43社	98社		

*自己株式を除く

**営業CF+投資CFで算出しております

10.設備投資および減価償却費

(億円)

	2007年度実績		2008年度実績		2009年度予想
	上半期	年度	上半期	年度	年度
減価償却費	188	387	193	406	480
設備投資(工事ベース)	128	211	77	196	320

11.単元株式の所有者別状況

	2008年3月末			2008年9月末			2009年3月末		
	株主数 (名)	所有株式数 (百万株)	構成比	株主数 (名)	所有株式数 (百万株)	構成比	株主数 (名)	所有株式数 (百万株)	構成比
政府及び地方公共団体	1	0	0.0%	2	0	0.0%	2	0	0.0%
金融機関	187	350	47.8%	189	340	48.0%	185	347	49.0%
金融商品取引業者	45	19	2.7%	46	12	1.8%	72	10	1.5%
その他の法人	673	44	6.1%	645	44	6.4%	738	45	6.5%
外国法人等	653	212	29.0%	642	216	30.6%	698	200	28.3%
個人・その他	56,944	89	12.2%	56,967	88	12.5%	75,205	99	14.0%
自己株式	1	16	2.2%	1	5	0.7%	1	5	0.7%
合計	58,504	733	100.0%	58,492	707	100.0%	76,901	707	100.0%

＜ランバクシー社株式取得に伴う会計処理についての補足資料＞

①企業結合会計に基づくパーチェス法で買収金額（4,883億円、株式数268,711千株：発行済株式総数の63.9%）の資産等への配分を下記のとおり行いました。

資産への配分内容	金額	取得時の会計処理 (1ルピー=2.25円)	2008年度 P/Lへの影響
株式取得総額	4,883億円		
現金、在庫等の資産・負債の簿価	788億円	B/S計上	
純資産公正価値	458億円		
棚卸資産 (棚卸資産に含まれる利益相当額)	20億円	B/S計上 (払い出し時に売上 原価計上)	売上原価計上 18億円 (取得時レート2.25円⇒ 期中平均レート2円で換算)
有形固定資産 (土地)	100億円	B/S計上 (非償却)	
無形固定資産 (借地権等)	59億円	B/S計上 (非償却)	
無形固定資産 (既製品等の価値を評価)	410億円	B/S計上 (10年均等償却)	販管費計上 9億円 (期中平均レート2円で換算)
インプロセスR&D費* (研究開発パイプラインを評価)	69億円	一括費用計上	R&D費計上 69億円 (取得時レート2.25円で換算)
繰延税金負債 (税率：33.99%)	▲200億円	B/S計上	
のれん	4,087億円	B/S計上 (20年均等償却)	販管費計上 102億円 (通常償却) 特別損失計上 3,513億円 (一時償却)
少数株主持分	▲450億円	B/S計上	

*特定の研究活動の目的で利用され、将来他の目的で使用できない資産であるため、研究開発費として一括費用計上を行いました。

②3月末時点においてランバクシー社の株価が取得株価の50%を下回っていたため、のれんの減損を行いました。

＜計算式＞

のれんの減損 = (通常償却後の期末のれん残高 + R社期末純資産の当社持分<63.9%>) - (R社株式の時価評価額)
3,513億円 = (3,985億円 + 388億円) - 859億円

12.連結貸借対照表

<資産の部>

(単位：億円)

	2008.3.31		2009.3.31		増減	増減内容
		構成比		構成比		
流動資産	9,265	62.3%	7,835	52.4%	-1,430	
現金及び預金	473		766		292	手元流動性（現預金＋有価証券＋投資有価証券他）
受取手形及び売掛金	1,670		1,955		285	合計 3,642億円<対07年度末 -2,978億円>
有価証券	5,268		2,355		-2,913	【内容】・ランバクシー社新規連結 +488億円 ・配当金支払 -533億円 ・自己株式取得 -458億円 ・U3ファーマ社株式取得 -268億円 ・ランバクシー社株式取得 -4,883億円 ・借入金 +2,400億円 ・DSI、LPI、DSE総資産増 +187億円
たな卸資産	982		1,395		413	
繰延税金資産	527		767		241	
その他	349		608		259	
貸倒引当金	-3		-10		-7	ランバクシー社株式減損に伴い税効果会計を適用したことにより計上
固定資産	5,614	37.7%	7,111	47.6%	1,497	
有形固定資産	2,213	14.9%	2,501	16.7%	288	ランバクシー社新規連結に伴う増加等
建物及び構築物	1,368		1,327		-41	
機械装置及び運搬具	332		460		129	
土地	331		424		92	
建設仮勘定	29		133		104	
その他	152		157		4	
無形固定資産	911	6.1%	1,926	12.9%	1,015	
のれん	154		774		620	U3ファーマ社+213億円 参考：のれん 251億円（2Qより5年償却） ランバクシー社+471億円 参考：のれん 4,087億円（3Qより20年償却） 通常償却（販売管理費） 102億円 一時償却（特別損失） 3,513億円
その他	757		1,152		395	ランバクシー社取得価額の配分に伴う増加（商標関連） +387億円
投資その他の資産	2,490	16.7%	2,684	18.0%	194	
投資有価証券	2,160		1,537		-623	株式市場の低迷による評価額の減少
長期貸付金	13		6		-7	
前払年金費用	80		69		-11	
繰延税金資産	60		916		856	ランバクシー社株式減損に伴い税効果会計を適用したことにより計上
その他	180		159		-22	
貸倒引当金	-4		-3		0	
資産合計	14,879	100.0%	14,946	100.0%	67	

<負債及び純資産の部>

(単位：億円)

	2008.3.31		2009.3.31		増減	増減内容
		構成比		構成比		
負債合計	2,434	16.4%	6,060	40.5%	3,626	
流動負債	1,945	13.1%	5,085	34.0%	3,140	
支払手形及び買掛金	464		594		130	
短期借入金	1		2,643		2,643	ランバクシー社株式取得に伴う短期借入金 土2,400億円 ランバクシー社新規連結に伴う増加
未払法人税等	187		82		-104	
返品調整引当金	8		6		-2	
売上割戻引当金	8		27		19	
偶発損失引当金	2		-		-2	
その他	1,276		1,733		457	ランバクシー社新規連結に伴う増加
固定負債	489	3.3%	974	6.5%	486	
転換社債型新株予約権付社債	-		471		471	ランバクシー社新規連結に伴う増加
長期借入金	0		159		158	ランバクシー社新規連結に伴う増加
繰延税金負債	267		54		-213	有価証券評価差額金の減少
退職給付引当金	68		106		38	
役員退職慰労引当金	1		2		1	
環境対策引当金	11		1		-10	
その他	142		182		41	
純資産	12,445	83.6%	8,886	59.5%	-3,559	
株主資本	12,116	81.4%	8,945	59.8%	-3,171	
資本金	500		500		0	
資本剰余金	1,799		1,052		-747	自己株式消却 -747億円 (26百万株)
利益剰余金	10,251		7,538		-2,713	ランバクシー社のれん一時償却 -3,513億円 配当金支払 -533億円
自己株式	-434		-146		289	取得：15百万株 -457億円、消却：26百万株 土747億円
評価・換算差額等	323	2.2%	-314	-2.1%	-637	
その他有価証券評価差額金	485		199		-287	株式市場の低迷による減少
繰延ヘッジ損益	-		1		1	
為替換算調整勘定	-163		-514		-351	
新株予約権	3	0.0%	24	0.2%	21	
少数株主持分	4	0.0%	232	1.6%	228	
負債純資産合計	14,879	100.0%	14,946	100.0%	67	

13.連結損益計算書

(単位：億円)

	2007年度		2008年度		増減	増減内容
		構成比 (%)		構成比 (%)		
売上高	8,801	100.0%	8,421	100.0%	-380	グループ外自立化対象としている事業の縮小 -320億円 欧州(07年度)決算期変更に伴う影響額 -141億円 ランバクシー社新規連結に伴う増加 +386億円 為替影響額 -390億円
売上原価	2,346	26.7%	2,144	25.5%	-202	原価率 -1.2P 高原価率である非医薬事業子会社を連結除外*したことで、セールスマックス等による改善 ランバクシー社新規連結による影響 +1.6P
売上総利益	6,455	73.3%	6,277	74.5%	-178	
販売費及び一般管理費	4,887	55.5%	5,389	64.0%	502	非医薬事業のグループ外自立化、欧州決算期変更に伴う影響額 -129億円
広告宣伝費及び販売促進費	1,091		1,098		7	
給料・賞与及び手当	912		944		32	事業基盤拡充に伴う海外要員数の増加
退職給付費用	2		73		71	国内における退職給付費用の増加 (07年度 国内における制度一元化に伴い一時的に減少)
研究開発費	1,635		1,845		211	U3ファーマ社買収、ArQuile社からの導入等、開発パイプライン強化に伴う費用の増加 ランバクシー社新規連結ならびに取得価額の配分に伴う増加等
その他	1,247		1,428		181	
営業利益	1,568	17.8%	889	10.6%	-680	
営業外収益	170	1.9%	123	1.5%	-47	
受取利息	86		63		-23	
受取配当金	33		31		-1	
その他	51		28		-23	
営業外費用	48	0.5%	460	5.5%	412	
支払利息	1		19		18	
デリバティブ評価損	7		205		198	ランバクシー社新規連結に伴う増加(為替デリバティブによる評価損) +148億円 当社株価と連動(米国DSIIにおける擬似ストックオプション) +49億円
為替差損	-		175		175	ランバクシー社新規連結に伴う増加(外債建借入金の時価評価に伴う為替差損) +106億円 欧州子会社無形固定資産の為替評価損等 +68億円
その他	39		61		22	
経常利益	1,691	19.2%	552	6.6%	-1,139	
特別利益	161	1.9%	38	0.5%	-123	
固定資産売却益	66		22		-44	
関係会社清算益	-		14		14	
関係会社株式処分益	87		-		-87	
その他	8		1		-7	
特別損失	183	2.1%	3,672	43.6%	3,489	
固定資産処分損	22		33		11	
のれん償却額	-		3,544		3,544	ランバクシー社ののれん一時償却
固定資産臨時償却費	-		32		32	大阪工場閉鎖、社屋建替えに伴う償却等
減損損失	-		31		31	
投資有価証券評価損	7		15		8	
事業統合関連損失	100		-		-100	
事業再編関連損失	22		-		-22	
訴訟関連損失	16		-		-16	
その他	16		17		1	
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失	1,669	19.0%	-3,083	-	-4,751	
法人税、住民税及び事業税等	691	7.9%	-792	-9.4%	-1,483	法人税率 41.4%→42.2% (のれん償却等を含むランバクシー社関連要因を除外後)
少数株主利益	1	0.0%	-136	-1.6%	-137	
当期純利益又は当期純損失	977	11.1%	-2,155	-	-3,132	

*子会社の連結除外

当社は医薬品事業への集中を図るため、非医薬品事業のグループ外自立化を進めてきました。

2007年度においては、日本乳化剤(株)、中日合成化学、北海三共(株)が連結除外となりました。

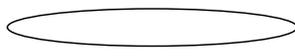
14.連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

	2007年度	2008年度	増減	増減内容
税金等調整前当期純利益/純損失	1,669	-3,083	-4,751	
減価償却費	387	406	18	
減損損失	-	31	31	
固定資産臨時償却費	-	32	32	
のれん償却費	36	3,718	3,682	ランバクシー社ののれん一時償却等
デリバティブ評価損益	7	205	198	
関係会社株式処分損益	-87	-	87	
退職給付引当金の増減額	-268	9	277	前期：退職給付制度一元化に伴う
前払年金費用の増減額	99	11	-88	
売上債権の増減額	76	47	-30	
たな卸資産の増減額	-45	-21	25	
仕入債務の増減額	-3	-3	0	
未払金及び未払費用の増減額	-541	35	576	前期：要員適正化や機能子会社への転籍に伴う退職金未払等の支払いによる減少
その他	-59	-17	42	
法人税等の支払額	-605	-586	19	
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	667	784	117	
短期運用資産の増減額	-294	365	659	有価証券による運用資産の減少
固定資産の取得・売却等	-439	-423	16	
投資有価証券の増減額	-16	-105	-88	
子会社株式の売却による収入	223	0	-222	前期：埼玉第一製薬、第一ファインケミカル等の外部化
子会社株式の取得による支出	-8	-4,113	-4,105	ランバクシー社株式取得(3,870億円*) U3ファーマ社株式取得(243億円*) *株式取得総額から取得会社保有の現金相当部分を 控除した額
貸付金の増減額	87	88	1	
その他	-47	48	95	
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	-494	-4,139	-3,644	
借入金の増減額	-24	1,973	1,997	ランバクシー社株式取得に伴う借入金(2,400億円)
自己株式の取得による支出	-334	-458	-124	08年度：15百万株取得(457億円) 07年度：10百万株取得(332億円)
配当金の支払額	-470	-533	-63	1株当たり10円増配
その他	-1	-1	0	
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	-829	981	1,810	
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	-47	-291	-244	
V 現金及び現金同等物の増減額	-704	-2,665	-1,961	
VI 現金及び現金同等物の期首残高	5,132	4,443	-689	
VII 連結範囲の変更による増減額	5	0	-5	
VIII 非連結子会社との合併に伴う増加額	10	-	-10	
IX 現金及び現金同等物の期末残高	4,443	1,778	-2,666	

15.主要開発パイプラインの状況

第一三共グループ主要開発パイプライン (ステージ別)

領域	主な既存品	Phase1	Phase2
循環器	Mevalotin Benicar/Olmetec Azor Welchol オルメテック カルプロック アーチスト メパロチン クレメジン ハンブ リパロ サンリズム ペプリコール	DB-772d(米/欧) (経口抗Xa剤)	☆CS-866CMB(日) (オルメサルタン・トキソミルとヒトロクロチアジドの配合剤) DU-176b(米/欧) (エドキサバン/静脈血栓塞栓/経口抗Xa剤) CS-747(日) (プラスゲレル/抗血小板剤)
糖代謝	Welchol ファステック	CS-1036(日/垂) (糖吸収阻害剤)	CS-011(日) (リボグリタゾン/インスリン抵抗性改善剤)
感染症	Levaquin/Tavanic Banan クラビット	CS-8958(米/欧) (抗インフルエンザ/ピオタと共同開発)	
癌	トボテシン クレステン	U3-1287(米) (抗HER3抗体) CS-1008(日) (Tigatuzumab/抗DR5抗体)	CS-1008(米) (Tigatuzumab/抗DR5抗体) CS-7017(米) (PPAR γ 活性化剤) DE-766(日) (ニモツズマブ/抗EGFR抗体) ARQ197(米/欧) (c-Met 阻害剤)
免疫・アレルギー	ジルテック	CS-0777(米/欧) (免疫抑制剤)	SUN13834(米) (キマーゼ阻害剤)
骨・関節	ロキソニン モービック		
その他	Venofer Evoxac オムニパーク オムニスキャン ビシパーク ソナゾイト フェロン ユリーフ		 SUN11031(米/欧) (ヒトグレリン/カヘキシア) ☆DD-723-B(日) (ペルフルブタン/超音波造影剤)

☆効能追加、剤形追加等

2009年1月(2008年度第3四半期決算発表)以降の主な変更

- 新規追加(アンダーライン) :CS-8635(欧)、CS-1008(日)、DD-723-B(日)
- ステージの変更 :CS-747(欧)、レボフロキサシン高用量(日)、SUN11031(日)
- 開発中止など :
- その他 :DU-176bのステージを心房細動と静脈血栓塞栓に分離して記載

Phase3	承認申請中
<p>☆CS-747(米/欧) (プラスグレル/ACS-MM/抗血小板剤)</p> <p>☆CS-866DM(日) (オルメサルタン トキゾミル/糖尿病性腎症)</p> <p>DU-176b(米/欧/日/亜) (エドキサバン/心房細動/経口抗Xa剤)</p> <p>DU-176b(日) (エドキサバン/静脈血栓塞栓/経口抗Xa剤)</p> <p>☆CS-8635(米/欧) (オルメサルタン トキゾミル、ベシル酸アムロジピン、 ヒドロクロチアジドの配合剤)</p>	<p>CS-747(欧) (プラスグレル/ACS-PCI/抗血小板剤/承認・発売)</p> <p>CS-747(米) (プラスグレル/ACS-PCI/抗血小板剤)</p> <p>☆CS-866AZ(日) (オルメサルタン トキゾミルとアゼルニジピン の配合剤)</p>
<p>CS-011(米/欧) (リホグリタゾン/インスリン抵抗性改善剤)</p>	
<p>☆レボフロキサシン注(日) (ニューキノロン剤)</p> <p>CS-8958(日) (抗インフルエンザ)</p>	<p>☆レボフロキサシン高用量(日) (ニューキノロン剤/承認)</p>
<p>AMG 162(日) (デノスマブ / 癌骨転移、骨粗鬆症/抗RANKL抗体)</p> <p>☆CS-600G(日) (ロキソプロフェン ナトリウム水和物/ゲル製剤)</p>	
<p>SUN11031(日) (ヒトグレリン/神経性食欲不振症)</p> <p>SUN Y7017(日) (メマンテン塩酸塩/ 軽度・中等度および高度アルツハイマー型認知症)</p>	<p>☆DL-8234(日) (フェロン効追/C型慢性肝炎/リバビリン併用療法)</p> <p>KMD-3213(中国) (シロドシン/排尿障害改善剤)</p>

循環器

【原則P2以降の開発品を掲載しています】

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-747	プラスグレル	経口	抗血小板剤	急性冠症候群	第一三共 宇都興産	米 欧 日	申請中 発売 P2

【備考】
 ・血小板表面でP2Y₁₂アデノシン三リン酸(ADP: adenosine diphosphate)受容体を遮断し、血小板の活性化および凝集を抑制する。
 ・米国、欧州はイーライリリーとの共同開発。日本は自社開発。
 ・第3相臨床試験において、プラスグレルは対照薬であるクロピドグレルに対して、重篤な心血管イベント発生リスクを統計学的有意性をもって19%減少させることが明らかとなり、出血の増加が認められたものの、リスクベネフィットを勘案した正味の臨床的有用性が示された(2007年11月開催の米国心臓協会学術大会にて発表)。
 ・第3相臨床試験の結果より、プラスグレルはクロピドグレルと比較してステント血栓症の関連リスクを52%減少させることが確認されていたが、サブ解析から薬剤溶出性ステント治療を受けている群で64%、ベアメタルステント治療を受けている群で48%、それぞれリスクを減少させることが明らかとなった(2008年3月開催の米国心臓病会議のInnovation in Interventionサミットおよび米国心血管造営とインターベンション会議合同学術大会において発表)。
 ・現在、米国で申請している適応は、経皮的冠動脈形成術(PCI: Percutaneous Coronary Intervention)を受けている急性冠症候群における血栓性イベント抑制である(ACS-PCI)。欧州では2009年2月に欧州委員会(EC)より承認を取得し、3月27日に英国にて発売。米国では、2009年2月にFDA(米国食品医薬品局)の心・腎疾患諮問委員会が満場一致で承認勧告。
 ・2008年6月より、新たに血管再建術を予定していない急性冠症候群患者を対象として、薬剤治療試験のP3を開始(ACS-MM)。

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
DU-176b	エドキサバン	経口	抗Xa剤	①心房細動に伴う心房性脳梗塞の予防 ②静脈血栓塞栓症	第一三共	米 欧 日	①P3、②P2 ①P3、②P2 ①P3、②P3

【備考】
 ・血液が凝固する過程で重要な役割を果たす血液凝固第Xa因子を阻害する。
 ・ヒトにおける高い経口吸収性が認められた1日1回投与が可能な経口抗Xa剤である。
 ・前臨床試験および臨床試験において、肝機能異常を引き起こす可能性が低いことを確認している。
 ・米国、欧州、日本とも自社開発。
 ・股関節置換術(THR/欧米)を対象とした後期第2相臨床試験において、血栓塞栓症を用量依存的に抑制することが確認され、また血栓塞栓症の抑制効果が高い用量においても、出血の発現率の増加は認められなかった(2008年9月開催の欧州心臓病学会において発表)。
 ・膝関節置換術(TKR/日本)を対象とした後期第2相臨床試験において、血栓塞栓症を用量依存的に抑制することが確認され、また大出血および臨床的に重要な出血の用量依存的な増加は認められなかった(2008年9月開催のアジア太平洋血栓止血学会において発表)。
 ・米国、欧州、日本において実施していた心房細動を対象とした後期第2相臨床試験は終了し、エドキサバンの30mg、60mg1日1回投与群における臨床的に重要な出血事象の頻度は、対照薬のワルファリン投与群と同程度であった(08年12月開催の米国血液学会において発表)。2008年11月に第3相臨床試験を開始。
 ・2009年3月に日本において術後血栓塞栓症予防の第3相臨床試験を開始。2009年4Qに深部静脈血栓・肺塞栓症患者の血栓塞栓症予防のグローバル第3相臨床試験を開始予定。

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-866DM	オルメサルタン トキソミル	経口	アンジオテンシン II 受容体拮抗剤	2型糖尿病における糖尿病性腎症	第一三共	日	P3

【備考】
 ・オルメサルタンライフサイクルマネジメントの一環として糖尿病性腎症への適応拡大。
 ・ORIENT試験において、主要評価項目として腎複合エンドポイント(腎複合評価エンドポイント:血清クレアチニンの2倍化、末期腎不全への移行(Scr₂5mg/dL、透析移行、腎移植)、死亡)を評価。
 ・承認申請予定:2009年

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-866AZ	オルメサルタン トキソミル アゼルニジピン	経口	アンジオテンシン II 受容体拮抗剤 カルシウム拮抗剤	高血圧症	第一三共	日	申請中

【備考】
 ・オルメサルタン トキソミル(アンジオテンシン II 受容体拮抗剤)とアゼルニジピン(カルシウム拮抗剤)の配合剤。
 ・オルメサルタンライフサイクルマネジメントの一環。
 ・承認申請:2008年12月

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-866CMB	オルメサルタン トキソミル ヒドロクロロチアジド	経口	アンジオテンシン II 受容体拮抗剤 利尿剤	高血圧症	第一三共	日	P2

【備考】
 ・オルメサルタン トキソミル(アンジオテンシン II 受容体拮抗剤)とヒドロクロロチアジド(利尿剤)の配合剤。
 ・オルメサルタンライフサイクルマネジメントの一環。
 ・米国:2003年9月発売。
 ・欧州:2005年6月発売。

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-8635	オルメサルタン トキソミル ベシル酸アムロジピン ヒドロクロロチアジド	経口	アンジオテンシン II 受容体拮抗剤 カルシウム拮抗剤 利尿剤	高血圧症	第一三共	米 欧 日	P3 P3 P2

【備考】
 ・オルメサルタン トキソミル(アンジオテンシン II 受容体拮抗剤)、ベシル酸アムロジピン(カルシウム拮抗剤)および利尿剤の配合剤。
 ・オルメサルタンライフサイクルマネジメントの一環。
 ・承認申請予定:2009年

糖代謝

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-011	リボグリタゾン	経口	インスリン抵抗性改善剤	糖尿病	第一三共	米 欧 日	P3 P3 P2

【備考】
 ・PPAR γ アゴニスト。
 ・第2相臨床試験において、HbA_{1c}の低下、TGの低下、HDL-Cの上昇が認められた。
 HbA_{1c}:投与開始時点からのHbA_{1c}低下(プラセボ補正)は、リボグリタゾン2mg、3mg群ともピオグリタゾン45mg群に比較して有意に大きかった。
 TG、HDL-C:リボグリタゾン群はピオグリタゾン群45mgに比較してTG低下、HDL-C上昇が大きかった。

感染症

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-8958	-	吸入	ノイラミダーゼ阻害剤	インフルエンザ	第一三共	米 欧 日	P1 P1 P3
【備考】 ・長時間作用型のノイラミダーゼ阻害剤であり、1回の投与のみで治療効果および週1回の投与での予防効果が期待できる。 ・米国、欧州でピオタ社と共同開発。日本では自社開発。 ・インフルエンザウイルスの感染部位である肺、気管に直接作用する吸入剤として開発中。 ・P3の患者登録終了。							
開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
レボフロキサシ注	レボフロキサシ	注	ニューキノロン剤	細菌感染症	第一三共	日	P3
【備考】 ・DNAジャイレース活性およびトポイソメラーゼIV活性の阻害により細菌のDNA合成を阻害する。 ・レボフロキサシンの注射剤であり、剤形追加。							

癌

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
ARQ 197	-	経口剤	c-Met阻害剤	-	ArQule	米 欧	P2 P2
【備考】 ・c-Metは、肝細胞増殖因子HGFの受容体で細胞運動、細胞増殖、アポトーシス誘導、血管新生、浸潤など様々な細胞内シグナル伝達に関与。 ・c-Metの変異は、胃癌、小児肝細胞癌、頭頸部癌で、発現亢進は大腸癌、肝細胞癌、膵臓癌、前立腺癌、乳癌等で認められる。							
開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-1008	Tigatuzumab	注射	抗DR5抗体	-	第一三共	米 日	P2 P1
【備考】 ・ヒトDeath Receptor 5(DR5)に対するアゴニスティックなマウスモノクローナル抗体であるTRA-8のヒト化抗体。 ・DR5は、ほとんどの正常細胞では発現していないことから腫瘍細胞選択的に作用することが期待される。 ・細胞表面にDR5を発現した癌細胞に対してアポトーシスを誘導する。							
開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
DE-766	ニモツズマブ	注射	抗EGFR抗体	-	CIMYM バイオサイエンス	日	P2
【備考】 ・Epidermal Growth Factor Receptor(EGFR、上皮細胞成長因子受容体)に対するヒトモノクローナル抗体。 ・皮膚毒性に関する安全性と他のEGFR抗体に匹敵する有効性から、ベストインクラスのEGFR抗体として期待される。							
開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-7017	-	経口	PPAR γ 活性化剤	-	第一三共	米	P2
【備考】 ・In vitroにおいて、癌細胞を殺さずその増殖を抑制。従来の化学療法と比べ、安全性の懸念が低いことが期待される。							

免疫・アレルギー

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
SUN13834	-	経口	キマーゼ阻害剤	アトピー性皮膚炎	アスピオファーマ	米	P2
【備考】 ・肥満細胞から放出されるアレルギー反応に関与する内因性蛋白分解酵素であるキマーゼを阻害する。 ・アスピオファーマが米国にて開発中。 ・新規メカニズムの経口アトピー性皮膚炎治療薬になると期待される。							

骨・関節

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
AMG 162	デノスマブ	注射	抗RANKL抗体	骨粗鬆症 がん骨転移	アムジェン	日	P3
【備考】 ・骨吸収の鍵となるメディエーターであるRANKリガンドを特異的にターゲットとする完全ヒト型モノクローナル抗体。 ・2007年7月アムジェンより導入。 ・骨粗鬆症に対して、第3相臨床試験の実施中。 ・癌の骨転移に対して、第3相国際共同治験を実施中。							
開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-600G	ロキソプロフェンナトリウム水和物	ゲル	消炎鎮痛剤	変形性関節症 筋肉痛 外傷後の腫脹疼痛	第一三共	日	P3
【備考】 ・作用機序：プロスタグランジン生合成抑制作用。作用点：シクロオキシゲナーゼ。 ・自社開発。 ・ロキソプロフェンナトリウム水和物含有経皮吸収型軟膏剤(ゲル製剤) ・ロキソニン(ロキソプロフェン ナトリウム水和物)の剤型追加。							

その他

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
SUN Y7017	マンチン塩酸塩	経口	NMDA受容体拮抗剤	アルツハイマー型認知症	メルツ	日	P3(高度) P3(軽・中等度)
[備考] ・既存のアセチルコリンエステラーゼ阻害剤とは異なり、グルタミン酸受容体の1つであるNMDA受容体への拮抗作用を有するアルツハイマー型認知症治療剤である。 ・神経細胞保護作用による認知症症状の進行抑制が期待される。 ・アスピオファーマが開発。							
開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
KMD-3213	シロドン	経口	α 1A受容体選択的拮抗剤	前立腺肥大に伴う排尿障害改善	キッセイ薬品	中国	申請中
[備考] ・前立腺の α 1A受容体をブロックし尿道の緊張を弛緩させ、尿道抵抗を改善する。既存薬に比べ α 1A受容体に対する選択性が高いため、循環器系への副作用が少なく、また自覚症状の早期改善が期待される。 ・日本では、ユリーフの販売名で第一三共、キッセイ薬品が販売。 ・承認申請：2008年12月。							
開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
SUN 11031	ヒグレリン	注射	-	カヘキシア 神経性食欲不振症	アスピオファーマ	米欧 日	P2 P3
[備考] ・現在までに発見されている摂食行動に関係するホルモンの中で、グレリンは唯一の末梢性の内因性摂食亢進因子であり、あわせて強力な成長ホルモン分泌促進作用を有する。 ・米国、欧州、日本ともアスピオファーマが開発。 ・米国、欧州では、カヘキシアを対象に、日本では、神経性食欲不振症を対象に第2相臨床試験を実施中。							
開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
DL-8234	インターフェロン- β	注射	インターフェロン- β 製剤	C型慢性肝炎(リハビリンとの併用療法)	東レ	日	申請中
[備考] ・日本において商品名フェロンで販売。 ・2007年9月に効能追加[C型慢性肝炎(リハビリンとの併用療法)]申請。 ・東レとの共同開発。 ・ α 型に比較して抑うつ等の中枢性副作用、脱毛の発現が少ない天然型のインターフェロン- β 製剤。							
開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
DD-723-B	ペルフルブタン	注射	超音波造影剤	前立腺病変の造影 乳腺病変の造影	GEHC	日	P2
[備考] ・日本において商品名ソナゾイドで販売。							

1. 損益計算書

(単位: 億円)

	2007年度					
	第3四半期		第4四半期		年度	
売上高	<3.0>		<-7.3>		<-5.3>	
	100.0	2,521	100.0	1,843	100.0	8,801
売上原価	27.2	685	28.7	528	26.7	2,346
販管費	47.9	1,207	71.3	1,314	55.5	4,887
再掲) 研究開発費	15.4	388	25.2	465	18.6	1,635
再掲) 研究開発費以外の販管費	32.5	820	46.1	849	37.0	3,252
営業利益	<17.2>		<-98.8>		<15.0>	
	24.9	629	0.0	1	17.8	1,568
営業外収益		35		48		170
営業外費用		10		19		48
経常利益	<12.8>		<-49.5>		<11.2>	
	25.9	654	1.6	30	19.2	1,691
特別利益		1		120		161
特別損失		23		94		183
税引前利益	25.1	632	3.1	57	19.0	1,669
当期純利益	<23.8>		<45.0>		<24.3>	
	14.3	362	0.7	12	11.1	977

	2008年度									
	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期		年度	
売上高	<-13.5>		<-2.7>		<-12.2>		<16.4>		<-4.3>	
	100.0	2,037	100.0	2,026	100.0	2,213	100.0	2,145	100.0	8,421
売上原価	23.9	486	24.2	490	24.0	531	29.7	636	25.5	2,144
販管費	56.5	1,151	65.1	1,320	59.5	1,317	74.6	1,601	64.0	5,389
再掲) 研究開発費	18.1	369	22.4	454	21.2	468	25.8	554	21.9	1,845
再掲) 研究開発費以外の販管費	38.4	782	42.7	866	38.4	849	48.8	1,047	42.1	3,543
営業利益	<-41.0>		<-17.1>		<-42.0>		<->		<-43.3>	
	19.6	400	10.7	216	16.5	364	-	-92	10.6	889
営業外収益		36		25		30		31		123
営業外費用		28		53		59		319		460
経常利益	<-43.0>		<-35.3>		<-48.7>		<->		<-67.4>	
	20.1	409	9.3	188	15.2	335	-	-380	6.6	552
特別利益		0		8		18		11		38
特別損失		13		26		3,574		59		3,672
税引前利益	19.4	395	8.4	170	-	-3,220	-	-428	-	-3,083
当期純利益	<-39.4>		<-52.8>		<->		<->	<->	<->	
	12.3	251	4.4	89	-	-3,318	38.4	823	-	-2,155

2. 為替レート

	2007年度	
	第3四半期累計	年度
円/USD (期中平均)	117.3	114.3
円/EUR (期中平均)	161.2	160.5
円/INR (期中平均)	-	-

	2008年度			
	第1四半期	第2四半期累計	第3四半期累計	年度
円/USD (期中平均)	104.6	106.1	102.8	100.5
円/EUR (期中平均)	163.4	162.7	150.7	143.5
円/INR (期中平均)	-	-	-	2.0

3. グローバル製品売上高

(単位: 億円)

	2007年度			
	第3四半期	第4四半期	年度	
オルメサルタン 【高血圧症治療剤】	<35.8>	<22.8>	<22.0>	
	540	449	1,956	
オルメテック (日本)	<29.5>	<21.4>	<30.7>	
	176	112	552	
ベニカーHCT/ ベニカー (米国)	<22.0>	<-2.0>	<-5.3>	
	241	193	879	
エイソール (米国)	<->	<->	<->	
	19	7	25	
オルメテックプラス/ オルメテック (欧州) *	<45.0>	<66.5>	<85.6>	
	83	112	418	
セビカー (欧州)	-	-	-	
その他子会社/輸出等	<199.0>	<180.7>	<189.2>	
	21	25	81	
レボフロキサシン 【合成抗菌剤】	<-1.0>	<3.6>	<4.4>	
	321	237	1,087	
クラビット (日本)	<-8.5>	<11.5>	<1.4>	
	155	98	474	
輸出等	<13.2>	<-5.5>	<6.8>	
	97	66	340	
特許料	<-6.9>	<3.0>	<2.8>	
	48	54	195	
その他子会社	<19.6>	<2.9>	<19.5>	
	21	19	78	
プラバスタチン 【高コレステロール血症治療剤】	<-12.3>	<-14.1>	<-18.3>	
	216	145	765	
メバロチン (日本)	<-8.7>	<-10.3>	<-9.1>	
	182	116	616	
輸出	<-54.7>	<-68.2>	<-73.4>	
	14	7	50	
欧州子会社*	<-13.3>	<1.5>	<11.5>	
	12	13	67	
その他子会社	<224.0>	<212.7>	<227.5>	
	8	8	32	

	2008年度									
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度					
オルメサルタン 【高血圧症治療剤】	<-4.5>	<23.7>	<6.6>	<9.1>	<8.0>					
	507	539	576	490	2,111					
オルメテック (日本)	<12.8>	<24.9>	<6.0>	<28.7>	<16.6>					
	156	157	187	144	644					
ベニカーHCT/ ベニカー (米国)	<2.6>	<1.8>	<-7.5>	<1.6>	<-0.6>					
	234	221	223	196	874					
エイソール (米国)	<->	<->	<39.6>	<241.8>	<240.7>					
	14	24	26	23	87					
オルメテックプラス/ オルメテック (欧州) *	<-44.3>	<40.7>	<10.1>	<-13.6>	<-10.3>					
	83	103	91	97	375					
セビカー (欧州)	-	-	-	14	<->					
その他子会社/輸出等	<30.4>	<72.2>	<62.0>	<-12.5>	<35.6>					
	20	33	35	22	110					
レボフロキサシン 【合成抗菌剤】	<-12.6>	<0.5>	<-19.8>	<-4.6>	<-10.2>					
	258	236	258	226	977					
クラビット (日本)	<-15.5>	<-6.0>	<-11.5>	<-1.2>	<-9.2>					
	102	94	137	97	430					
輸出等	<-11.3>	<19.4>	<-36.8>	<7.6>	<-8.7>					
	96	83	62	71	311					
特許料	<-12.6>	<-13.8>	<-15.9>	<-26.6>	<-17.6>					
	41	40	41	40	161					
その他子会社	<-1.8>	<0.9>	<-11.9>	<-2.6>	<-4.0>					
	19	19	18	18	75					
プラバスタチン 【高コレステロール血症治療剤】	<-25.8>	<-14.9>	<-23.3>	<-15.3>	<-20.5>					
	161	159	166	123	608					
メバロチン (日本)	<-17.1>	<-14.8>	<-22.6>	<-14.3>	<-17.6>					
	135	131	141	100	507					
輸出	<-39.0>	<-33.6>	<-54.0>	<-3.5>	<-36.6>					
	10	8	6	7	32					
欧州子会社*	<-74.3>	<-3.4>	<1.2>	<-43.9>	<-40.7>					
	7	12	12	7	40					
その他子会社	<-3.1>	<-7.6>	<-25.4>	<7.1>	<-7.2>					
	8	8	6	9	30					

* 2007年度は、第一三共ヨーロッパGmbH (DSE) の決算期を変更 (12月期→3月期決算) したため、15ヶ月決算 (2007年1月-2008年3月) となっております。2007年1月-3月の実績は、オルメテック/オルメテックプラス64億円 (€40mil)、プラバスタチン16億円 (€10mil) であります。

4. 海外売上高

(単位：億円)

	2007年度			2008年度				
	第3四半期	第4四半期	年度	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度
海外売上高	14.2	4.2	0.5	15.9	3.6	9.9	47.5	4.1
対売上高比率	36.6%	42.2%	40.7%	43.5%	42.5%	37.9%	53.5%	44.3%
北米	15.0	11.9	9.1	3.9	2.7	15.1	21.7	0.6
欧州*	2.0	7.7	16.8	42.6	31.8	12.9	37.0	0.3
その他	38.3	17.0	31.9	22.3	10.9	15.4	206.7	33.6
	107	90	402	80	92	91	276	538
	924	778	3,586	887	861	838	1,147	3,733

* 2007年度は、第一三共ヨーロッパGmbH (DSE) の決算期を変更 (12月期→3月期決算) したため、15ヶ月決算 (2007年1月-2008年3月) となっております。
2007年1月-3月の実績は、売上高141億円であり、営業利益18億円です。

5. セグメント別情報 (事業別)

(単位：億円)

	2007年度			2008年度				
	第3四半期	第4四半期	年度	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度
連結売上高	3.0	7.3	5.3	13.5	2.7	12.2	16.4	4.3
医薬品事業	7.0	3.1	0.4	10.2	1.7	8.6	21.7	0.2
国内医療用医薬品	2.3	1.8	0.9	8.2	0.4	9.3	1.8	4.7
海外医療用医薬品*	16.2	3.2	4.3	14.1	5.3	6.1	46.7	5.9
ヘルスケア	0.1	30.6	4.9	3.1	5.2	13.2	6.5	6.2
その他事業	43.4	69.6	57.4	91.5	90.0	93.0	90.7	91.3
連結営業利益	17.2	98.8	15.0	41.0	17.1	42.0	-	43.3
医薬品事業	18.4	140.5	18.5	42.3	18.9	42.5	-	44.3
その他事業	-	625	-	-	394	45.8	53.9	116.2
	3	11	10	5	7	5	5	22
	2,521	1,843	8,801	2,037	2,026	2,213	2,145	8,421
	2,412	1,756	8,408	2,029	2,016	2,205	2,137	8,387
	1,357	870	4,373	1,033	1,016	1,232	886	4,167
	894	783	3,525	887	858	840	1,149	3,733
	152	108	503	102	138	132	101	472
	109	87	393	8	10	8	8	34
	629	1	1,568	400	216	364	-92	889
	625	-11	1,556	394	209	359	-97	866

* 2007年度は、第一三共ヨーロッパGmbH (DSE) の決算期を変更 (12月期→3月期決算) したため、15ヶ月決算 (2007年1月-2008年3月) となっております。
2007年1月-3月の実績は、売上高141億円、営業利益18億円です。

6. セグメント別情報 (所在地別)

(単位：億円)

	2007年度			2008年度				
	第3四半期	第4四半期	年度	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度
連結売上高	3.0	7.3	5.3	13.5	2.7	12.2	16.4	4.3
日本	4.1	11.1	10.4	12.6	7.3	15.8	8.4	11.4
北米	24.7	11.4	7.1	12.5	1.4	10.0	31.7	7.2
欧州*	21.6	28.2	46.1	53.1	41.9	24.8	41.8	0.7
インド	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	52.7	36.3	55.0	16.9	16.3	13.9	101.4	10.9
連結営業利益	17.2	98.8	15.0	41.0	17.1	42.0	-	43.3
日本	473	-95	1,071	185	82	255	-88	434
北米	125	26	376	169	109	116	109	503
欧州*	14	59	107	12	0	5	40	58
インド	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	7	4	25	7	4	-35	27	4
	2,521	1,843	8,801	2,037	2,026	2,213	2,145	8,421
	1,797	1,230	5,981	1,327	1,330	1,514	1,127	5,298
	511	372	1,780	507	453	460	489	1,908
	144	182	780	152	185	180	258	774
	-	-	-	-	-	-	153	153
	69	59	261	52	58	59	119	289
	629	1	1,568	400	216	364	-92	889
	473	-95	1,071	185	82	255	-88	434
	125	26	376	169	109	116	109	503
	14	59	107	12	0	5	40	58
	-	-	-	-	-	-	-	-
	7	4	25	7	4	-35	27	4

* 2007年度は、第一三共ヨーロッパGmbH (DSE) の決算期を変更 (12月期→3月期決算) したため、15ヶ月決算 (2007年1月-2008年3月) となっております。
2007年1月-3月の実績は、売上高141億円、営業利益18億円です。

7. 主要会社の状況

データのダウンロードは右記URLより www.daiichisankyo.co.jp/ir/highlight/index.html

7-1. 第一三共単体

(単位：億円)

	2007年度			2008年度					
	第3四半期	第4四半期	年度	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度	
国内医療用医薬品合計	<0.7	<3.5	<1.6	<8.8	<0.9	<8.9	<2.3	<4.8	
	1,319	842	4,271	1,009	995	1,201	862	4,067	
循環器関連疾患領域		718	502	<3.3	<5.9	<2.2	<8.8	<0.6	<4.8
			2,442	600	572	655	499	2,325	
オルメテック 【高血圧症治療剤】	<29.5	<21.4	<30.7	<12.8	<24.9	<6.0	<28.7	<16.6	
	176	112	552	156	157	187	144	644	
カルブロック 【高血圧症治療剤】	<10.2	<23.1	<16.3	<19.4	<26.9	<13.6	<17.2	<18.9	
	30	24	102	30	29	34	28	121	
アーチスト 【高血圧症治療剤】	<3.7	<16.5	<9.6	<3.3	<4.9	<0.5	<6.8	<3.6	
	60	46	211	57	53	60	49	219	
メパロチン 【高ルイスロル血症治療剤】	<8.7	<10.3	<9.1	<17.1	<14.8	<22.6	<14.3	<17.6	
	182	116	616	135	131	141	100	507	
クレメジン 【慢性腎不全用剤】	<1.8	<1.8	<1.7	<3.9	<3.9	<0.5	<5.3	<2.9	
	35	27	124	32	32	35	28	128	
ハンブ 【急性心不全剤】	<1.7	<15.5	<6.4	<7.8	<3.2	<5.2	<8.1	<6.2	
	29	24	98	24	18	28	22	92	
リパロ 【高ルイスロル血症治療剤】	<3.0	<10.1	<6.3	<10.0	<13.8	<8.1	<16.6	<11.8	
	16	12	55	15	15	18	14	61	
サンリズム 【不整脈治療剤】	<2.4	<7.5	<3.0	<4.2	<2.9	<6.1	<0.3	<3.6	
	34	25	121	31	29	32	25	116	
ファステック 【血糖降下剤】	<5.6	<4.0	<4.0	<0.5	<0.1	<2.9	<1.3	<1.2	
	15	11	52	13	13	14	11	51	
感染症/骨・関節/免疫・アレルギー/泌尿器		459	287	<1.7	<8.3	<4.2	<2.6	<4.6	<1.0
			1,388	308	319	447	300	1,374	
クラビット 【合成抗菌剤】	<8.5	<11.5	<1.4	<15.5	<6.0	<11.5	<1.2	<9.2	
	155	98	474	102	94	137	97	430	
ロキソニン 【消炎鎮痛解熱剤】	<9.0	<6.0	<8.7	<2.2	<28.3	<17.1	<12.3	<15.1	
	98	74	336	84	104	115	83	387	
モービック 【消炎鎮痛剤】	<10.6	<2.8	<4.0	<13.1	<16.7	<23.1	<18.3	<17.8	
	29	20	102	24	21	22	16	84	
ユリーフ 【排尿障害改善剤】	<145.4	<168.5	<139.3	<59.7	<45.4	<25.9	<60.5	<46.0	
	17	14	54	18	18	21	22	79	
シルテック 【抗アレルギー剤】	<18.4	<0.6	<9.5	<23.8	<16.1	<15.6	<4.8	<14.1	
	27	37	108	20	16	22	35	93	
造影剤/癌/消化器		171	117	<5.6	<22.2	<13.6	<19.0	<13.6	<17.5
			591	123	125	139	101	488	
オムニパーク 【造影剤】	<6.3	<12.7	<1.2	<11.3	<5.4	<13.2	<4.7	<9.1	
	92	60	312	73	73	80	57	283	
トボテシン注 【抗悪性腫瘍剤】	<4.0	<18.8	<13.8	<0.7	<2.1	<1.0	<2.1	<0.9	
	17	13	62	16	15	17	14	62	

7-2. 第一三共ヘルスカア

(単位：億円)

	2007年度			2008年度				
	第3四半期	第4四半期	年度	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度
ヘルスカア売上高合計	<0.1	<30.6	<4.9	<3.1	<5.2	<13.2	<6.5	<6.2
	152	108	503	102	138	132	101	472
ルル類	<3.4	<28.9	<0.5	<8.7	<2.0	<4.0	<6.9	<2.2
	37	15	100	12	36	35	14	98
ガスター10	<28.9	<64.0	<3.0	<15.5	<7.8	<2.6	<12.6	<5.5
	10	8	35	7	9	10	7	33
新三共胃腸薬類	<39.1	<45.4	<17.5	<7.9	<31.2	<26.4	<12.1	<5.2
	13	8	35	7	9	10	7	33
パテックス類	<41.1	<63.6	<56.6	<19.5	<9.0	<0.0	<9.3	<10.4
	7	5	30	8	8	7	4	27
トランシーノ	<→	<→	<→	<→	<62.0	<76.9	<69.6	<41.4
	7	5	26	7	5	2	1	15

7-3. 第一三共Inc. (米国)

(単位: 億円)

	2007年度			2008年度				
	第3四半期	第4四半期	年度	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度
第一三共Inc. (DSI)	<35.1>	<16.6>	<2.7>	<12.0>	<0.6>	<13.5>	<15.3>	<1.9>
	376	242	1,269	372	317	326	279	1,293
mil USD	<39.6>	<3.6>	<0.4>	<29.4>	<8.4>	<2.1>	<27.9>	<15.8>
	330	234	1,110	356	294	337	300	1,286
パニカー/パニカーHCT 【高血圧症治療剤】	<22.0>	<2.0>	<5.3>	<2.6>	<1.8>	<7.5>	<1.6>	<0.6>
	241	193	879	234	221	223	196	874
mil USD	<26.3>	<11.6>	<3.0>	<18.6>	<11.3>	<8.7>	<14.1>	<13.0>
	212	184	769	223	205	230	210	869
エイゾール 【高血圧症治療剤】	<->	<->	<->	<->	<->	<39.6>	<241.8>	<240.7>
	19	7	25	14	24	26	23	87
mil USD	<->	<->	<->	<->	<->	<66.2>	<285.1>	<287.2>
	16	6	22	13	23	27	24	86
ウェルコール 【高血圧/糖尿病治療剤/2型糖尿病治療剤】	<29.5>	<3.4>	<2.1>	<11.0>	<8.8>	<6.6>	<4.3>	<7.8>
	62	51	227	64	61	66	53	245
mil USD	<34.1>	<9.6>	<0.2>	<28.2>	<18.9>	<24.7>	<17.8>	<22.5>
	55	49	199	62	57	68	57	244

7-4. ルイトボルド ファーマシューティカルズ Inc. (米国)

(単位: 億円)

	2007年度			2008年度				
	第3四半期	第4四半期	年度	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度
ルイトボルド (LPI)	<2.3>	<0.6>	<16.3>	<13.8>	<6.4>	<0.5>	<17.8>	<0.1>
	135	130	511	135	134	107	511	
mil USD	<5.9>	<12.9>	<14.3>	<31.4>	<16.5>	<16.9>	<5.7>	<13.8>
	119	122	447	129	126	139	115	509
ヴェノファー 【貧血治療剤】	<3.5>	<5.5>	<17.6>	<23.1>	<6.4>	<1.7>	<15.3>	<3.1>
	82	81	311	83	85	83	69	320
mil USD	<0.3>	<5.7>	<15.6>	<42.2>	<16.7>	<19.5>	<2.8>	<17.2>
	72	76	272	80	79	86	74	319

7-5. 第一三共ヨーロッパGmbH (欧州)

(単位: 億円)

	2007年度			2008年度				
	第3四半期	第4四半期	年度	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度
第一三共ヨーロッパGmbH (DSE)	<26.3>	<32.8>	<51.0>	<53.1>	<42.4>	<24.2>	<2.4>	<9.9>
	145	182	780	152	185	180	186	703
mil EUR	<14.7>	<27.4>	<37.5>	<54.2>	<42.5>	<53.8>	<27.9>	<0.8>
	88	115	486	93	114	136	147	490
オルメテック/オルメテックプラス 【高血圧症治療剤】	<45.0>	<66.5>	<85.6>	<44.3>	<40.7>	<10.1>	<13.6>	<10.3>
	83	112	418	83	103	91	97	375
mil EUR	<31.0>	<58.4>	<69.0>	<45.6>	<40.5>	<37.5>	<8.5>	<0.3>
	51	71	261	51	64	70	77	261
セピカー 【高血圧症治療剤】	-	-	-	-	-	<->	<->	<->
	-	-	-	-	-	14	8	22
mil EUR	-	-	-	-	-	<->	<->	<->
	-	-	-	-	-	9	6	15
メパロチン 【高血圧/糖尿病治療剤】	<13.3>	<1.5>	<11.5>	<74.3>	<3.4>	<1.2>	<43.9>	<40.7>
	12	13	67	7	12	12	7	40
mil EUR	<21.4>	<1.2>	<1.5>	<74.9>	<3.6>	<23.3>	<25.7>	<33.7>
	7	8	42	4	8	9	6	28
エビスタ 【骨粗鬆症治療剤】	<62.6>	<51.5>	<87.1>	<71.7>	<419.7>	<134.5>	<57.8>	<128.5>
	13	14	52	32	35	30	22	120
mil EUR	<46.6>	<43.6>	<70.4>	<67.7>	<421.3>	<195.4>	<111.8>	<155.6>
	8	9	33	20	22	23	18	84

* 第一三共ヨーロッパGmbH (DSE) の2007年度実績は、決算期を変更(12月期→3月期決算)したため、15ヶ月決算(2007年1月-2008年3月)となっております。

なお、2007年1月-3月の実績はDSE全体で14.1億円(€89mil)、オルメテック/オルメテックプラス、メパロチン、エビスタの製品売上はそれぞれ、64億円(€40mil)、16億円(€10mil)、10億円(€6mil)であります。

【参考】 エフィエント (欧州) 共同販促収入

	2007年度	2008年度
エフィエント 【抗血小板剤】	-	<->
mil USD	-	<->
	-	0.3
	-	<->
	-	0.3

* 欧州のエフィエント共同販促収入は第一三共単体に計上されており、上記DSEの売上には含まれません。

7-6. アジア/中南米 (ASCA)

(単位: 億円)

	2007年度			2008年度				
	第3四半期	第4四半期	年度	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度
ASCA合計	52	59	210	<10.5> 52	<12.7> 58	<14.3> 59	<16> 60	<9.5> 230
第一製薬北京 (DPP)	10	12	41	<10.9> 10	<-0.8> 10	<11.4> 11	<-22.0> 9	<-1.3> 40
上海三共 (SSP)	7	5	23	<29.5> 7	<64.3> 9	<62.4> 11	<126.2> 11	<69.0> 38
韓国第一三共 (DSKR)	9	8	34	<4.3> 9	<1.1> 9	<-35.5> 6	<-19.7> 6	<-12.4> 30
第一三共タイ (DSTH)	2	2	8	<-4.9> 2	<17.9> 2	<-3.3> 2	<-13.4> 2	<-1.4> 8
台湾第一三共 (DSTW)	9	9	37	<1.6> 9	<1.2> 10	<-9.0> 8	<-15.5> 8	<-5.4> 35
第一三共ブラジル (DSBR)	10	14	44	<11.5> 10	<14.9> 12	<38.7> 14	<-4.2> 14	<13.6> 50
第一三共ベネズエラ (DSVE)	5	9	24	<21.7> 5	<12.0> 6	<40.5> 7	<9.8> 10	<19.0> 28

7-7. ランバクシー・ラボラトリーズ Ltd.

(単位: 億円)

	2007年度			2008年度				
	第3四半期	第4四半期	年度	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度
ランバクシー	-	-	-	-	-	-	↔	↔
億インドルピー	-	-	-	-	-	-	386	386
							↔	↔
							193	193

7-8. ASCA各社およびランバクシーのグローバル製品売上高

(単位: 億円)

	2007年度			2008年度				
	第3四半期	第4四半期	年度	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度
オルメサルタン 【高血圧症治療剤】	10	15	42	<69.3> 13	<110.1> 19	<98.0> 21	<38.4> 21	<74.2> 73
レボフロキサシ 【合成抗菌剤】	21	19	78	<-1.8> 19	<0.9> 19	<-11.9> 18	<-2.6> 18	<-4.0> 75
プラバスタチン 【高コレステロール血症治療剤】	8	8	32	<-3.1> 8	<-7.6> 8	<-25.4> 6	<7.1> 9	<-7.2> 30



将来の見通しに関して

当社では、東京証券取引所に提出する収益予想に加えて、投資家や証券アナリストの皆様が自ら当社の業績に関する予想を立てられるよう、見通しに関するガイダンスを提供する場合があります。また、ご挨拶、講演、質疑応答、当社の発行する書面、ホームページ記載内容等には現在の計画、見通し、戦略などが含まれる場合があります。何れの場合におきましても、歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また現在入手可能な情報から得られた当社の判断にもとづいております。従いまして、当社の業績、企業価値等を検討されるに当たりましては、これら見通しのみで全面的に依拠されることは控えて頂けるようお願い致します。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)急速な技術革新が進む創薬分野において、タイムリーに研究・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。